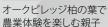
11



住谷 栄之資 KCJ GROUP 取締役社長兼CEO







在のあらゆる分野において世界情勢が今 **しまでにない混沌とした状況にあること** は周知の事実です。私は約30年間という長い 間、外食産業の経営に携わってきました。外資 系ファストフード店(KFC、マクドナルド等) が日本に上陸した時代です。私共はKFCの加 盟店として出店し、その後アメリカのカジュア ルダイニングのトニーローマやハードロックカ フェ、さらにオイスターバーやババ・ガンプ・ シュリンプを導入する傍ら、カプリチョーザや プリミ・バチといったオリジナルのコンセプト 店も開業しました。市場展開として海外、主に アメリカやオーストラリア等にも出店しました。 仕事柄アメリカを中心にさまざまな国に出掛け、 その国の食文化を通して多くのことを学ぶ機会 を得ました。その中で、日本の若者が世界の若 者に比べて、ハングリー精神が希薄であること や、未知の環境への適応能力が低いことを憂 い、ニート問題等にも心を痛めていました。

60歳を機に外食産業に終止符を打ち、友人 の紹介でメキシコの「キッザニア」と出会い、 このコンセプトを日本に導入する決意をしまし た。キッザニアでは、子どもたちが職業・社会 体験を通して働くことの楽しさや難しさを楽し みながら学びます。今の日本の教育は、記憶力、 伝達力等に重点が置かれているように感じます。 しかし子どもたちは、その持てるバイタリティ、 好奇心を通して、いろいろな体験をすることで、 「生きる力」を身に付ける必要があります。

さまざまな便利な物にあふれた豊かな現代 は、1760年代のイギリスの産業革命から始ま りました。振り返ってみれば、人力、馬力に 頼っていた時代から、自然資源を掘り起こし石 炭・石油、そして電力と、新たな動力が次々と 生み出されました。蒸気機関車が発明され、電 話、電球、自動車、飛行機と次々に新しい発明 がもたらされ、それによって新たな産業も次々 と誕生しました。さらに技術革新が進み、コン ピュータを中心に情報革命が起きます。人口も 日本を含め先進国では約4倍に膨れ上がりま した。さまざまなものがゼロから生まれ、大規 模な経済効果を生み、世界は爆発的な経済成長 を遂げていきました。こうした背景にあるの は、すべて「人間の欲望」だと私は思っていま す。例えば、楽に遠くに行きたい、自由に好き な所へ旅したい、空を飛びたい、遠くの人と話 をしたい等の欲望があり、それに対応した発明 がありました。そしてもう新たに作るものがな くなったとき、お金をパッケージにした金融商 品が生まれました。しかしこれは金融破綻に よって福袋にはなり得ないことが分かりまし た。こうして産業革命からちょうど250年 たった今、近代資本主義の時代は一区切りを迎 えています。この現実を検証し、今後われわれ はこの人間社会を中心とした世界にどう向き合 うのかを考える時代に来ていると思います。

発展途上国においては、モノの充足感を満た すべく経済発展が期待されますが、ヨーロッパ、 アメリカ、日本等の先進国は、いわゆる近代資 本主義の下、モノを中心とした産業・生活面等 において、国・人とも一定の充足感が得られ、 GDPは現状維持が続くと思われます。さらに、 グローバルな視点から見れば、人々のモノに対 する欲望が薄れてくる中、2100年に世界の人 口が100億人に増えるとなると、食料問題、医 療問題、環境問題もさらに深刻さを増すことが 予想され、今までの価値観だけでは対応できな い時代に突入したと感じています。

これらを鑑み将来を考えた場合、子どもたち に新たな広義の教育を行うことの必要性を痛感 します。いつの時代でも通用するような好奇心、 創造力をどう体得するかが問われています。こ うしたことを経済同友会の皆さまと、今後意見 を深めさせていただければ幸甚です。